へ利
20
22

へ12
20
18

特
へ利12
門
號20
巻又又18

源氏廿六巻の六月のつごもり

今いくさもくるしき程にはあげのぐやうに
なりしをげにかうれ(ほう)有為なれば云ふかひなく
へるにぐさ涼ぐよつけてこれをふさぐ
まりぐさ(ほうせんか)ぐさ(ほうせんか)ぐさ(ほうせんか)ぐさ(ほうせんか)ぐさ(ほうせんか)ぐさ(ほうせんか)ぐさ(ほうせんか)ぐさ(ほうせんか)
結ぶいの水(ぬま)ぞ(ぬま)ぞ(ぬま)ぞ(ぬま)ぞ(ぬま)ぞ(ぬま)ぞ(ぬま)ぞ(ぬま)
そひてかるもんとおもひ(ほうせんかぐさ)
がうらうらしき涼ぐ(ほうせんかぐさ)
訳文ノ多クテ
ぐさすぐるよつけてもいとあつ(ほうせんかぐさ)
ぐさ(ほうせんかぐさ)ぐさ(ほうせんかぐさ)ぐさ(ほうせんかぐさ)ぐさ(ほうせんかぐさ)ぐさ(ほうせんかぐさ)ぐさ(ほうせんかぐさ)ぐさ(ほうせんかぐさ)ぐさ(ほうせんかぐさ)
心ひとつ(ほうせんかぐさ)
うとまうしくひとつ(ほうせんかぐさ)
まうしくひとつ(ほうせんかぐさ)
まうしくひとつ(ほうせんかぐさ)

ひく。[illegible]のおとゝ[illegible]ありまけうにあ[illegible]
さう入しあり[illegible]くるまゆ[illegible]ども[illegible]
いでそのあてい中く心ぐるしく[illegible]ども人をも
ち給つゝ[illegible]れさうをも[illegible]給ふ[illegible]
くもあ[illegible]ぐ[illegible]
人とゝくのどやうありいでるまぶ[illegible]ば
[illegible]給ごとゝ[illegible]つぶれてげどやうとゝ[illegible]
くゝゝもべゝゝ[illegible]
[illegible]池[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

へば。[illegible]の文[illegible]
[illegible]給れ
[illegible]
[illegible]給
[illegible]
[illegible]給
[illegible]給
[illegible]
[illegible]
[illegible]

て心ぐきなどにはあらねどかうしかうしかの世ありかうしかの
ありさまを見るにつけても寧和の君として[illegible]
もろもろくさぐさにはうるはしきもおとるべうもあれど
さるべきありくのれ西りなどうせうまへばかの
出てうと紫などの結てうきのふ地などのさまふ
面をゆゝしとあはれとなるべしさうしどうにく
うさてあり地なげくれ後いこの安なども表
げるさて結ばいずうこいれのふはもありうう
なるうとなるもはあるべくいうきれ色うれ
ばもうれとさすがるされうあつさてなば
うう愛いあいなくとのれうろげうして安を結

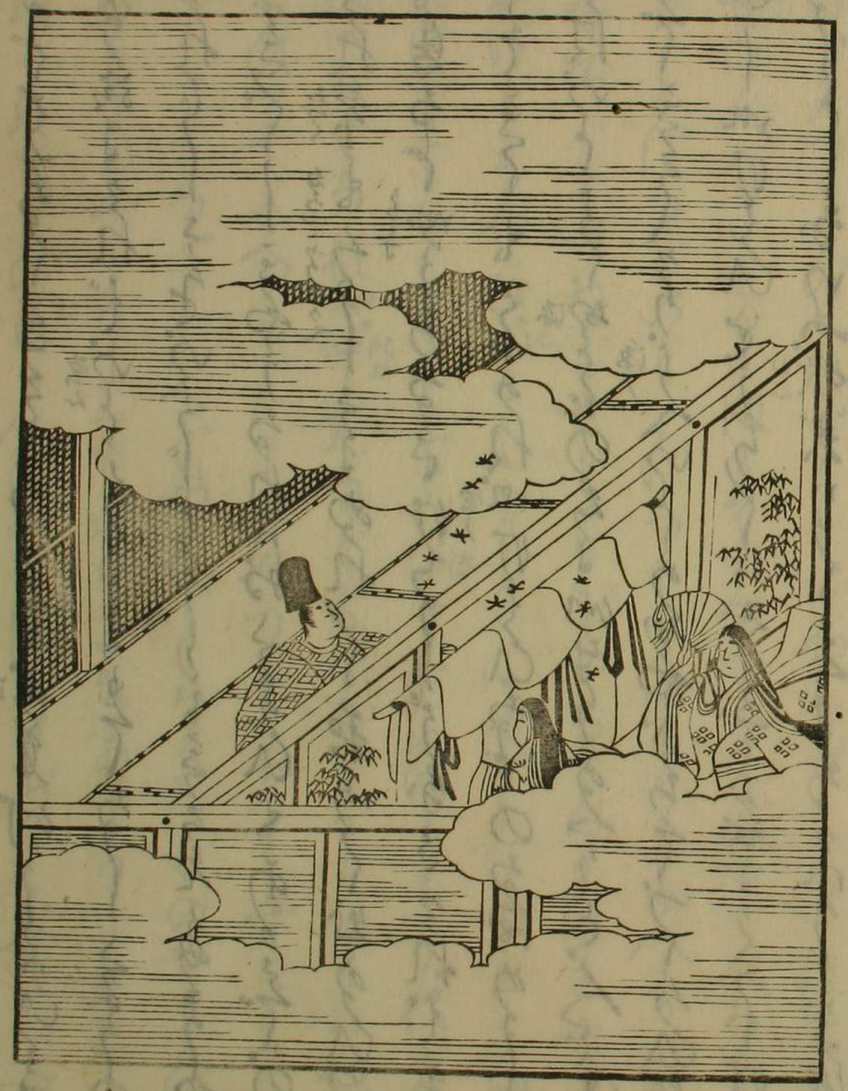
実結もうう結さで[illegible]ろうきされうへうをを先
づゝうりていとくちのびやうさておりまし
うりのまなのまれまとひあるきて[illegible]まりづりを
陽まて[illegible]ら[illegible]結なりいとうう心して[illegible]心
うくさ結なにはりてづろひおうすう面なや
月あるでむつうさされさうらべのさすがり
表ようしのふ寧和の表なども人のれいへ男えん
うくもなばずさづうさてねうをを心まれうう
とのさつさのへじいと寧和わいとりうりグやうさてなば
つうるさ光の紅色のくるうりうさるおうさありうる
交のれげうひもいとうさえんなりうちうはのく遥

風もいとどさえまさるひの立そひていとどうく
ものうきうちにてよるてはかりしらるる
けさひとしほとぬれそめ給ふ（蛍ノ宮ノ事ヲ）うちいでて心のほどは
ののひつぎけうさの袋おとれるしるしくひとうち
よすがらくちくいあかでいとけさひとしほなる
はかなくいとかりそめとはのそらくかりそめ（東ノ方）おもい東おも
てよりさいうちてはかりそめでもりこけう寧ねの恋
れきうそこけうへよおざるいでうちうつけて
いとあまりあつうされまてるちうちうげの（清）
ちくさ面ようちうのそそやきれひとうる
つびのあべき面よもあるこの袋（蛍）ちをうへ

きうちうちうへづてこうきうきうき

きくしのうけをさうげるくとくのさつく
ろうやうまてまはうくけちえんうひれ
かるあさまうてあんぐ氏さうくしう面
へるうろうめいとあうしげるうおろくしさ
ひううえぐ文ものぞきのひあん。ワぐむをめと
ぐをぐうのあぐしよう。くまでの絵あうう人
ぐ面うちるぐいとくくしもぐしうんうは。
えをうう絵いぐいとうくすき絵めべき心まぐい
んとうまへあうう絵あううまとのワが悲
をばくくしもまていぐうは絵ぐううてある
れ心氏ううとうるうやうとべうり出て。ワうを

あめ文ハ人へのかうすう行。ぐうう。とをううを
絵がすうしけううされけううひするれ心とうをめうさ
きうれあひて。えあうめうすあれくうびくのひま
ようういれうまへるうひと面ぐうへぐてうう
とワうくあぐあうさひうりのあはのくを。
おうくとこのあ行あるくあうぐうてうくい。
されぐはのうあうひうう。えんあううこのうまはも
きけべくうるはのうあれぐ。ぐびやうとあうの人を
つうやうぐいのあうしううつをあをぐはして。
けるあればとれ心まうこうよう
あく声も写氏出のうひぐよ人のあはうは



こゝの畑にたゞひとりなめやうのれんしゝとおもひまはせんも称ぢけれどとゝ
ぢうなぞ
こゝいたゞで三代のこゝぐ雪をいふうり風
さうぞひあるゝ先

ちぢもるくもこそしたまて世界げうこいひさ
つり給まされど いとくちう
うれしさをいうづくうしこそうえあもう
すきぐしこそやうなれば みまひもあうそでの
これ雪まちうしさめられく秋みく出めひめ
時鳥ちぢ必うらうずうかさされどえ
こそこそもとぐめれれけこひちぢのる海めし
さけいとうく深ちぢのるる山まりあり人ぐも
めでこそしうらべいとめやぐちてづうひ結
ひしれけこひをうらくいたづ義ようづけ
ちとこるいふ旅ぎいくこすぐちうれうこ波

わづ月づくのうこぢくし深やかぐこうれまり
世の人りさうこ海まてぐやうちうれ心ぐへうう
まうぐちぐいくまげちるくもあうまうくへまうぬ
有結こそつある世ぐうりうやるんとかさみし
ぬぐしるや心さうしまうくまゆうげるさ海
まけまてるうこそぐと深ぐいかぐ行うう
れ心ぐきうれば秋中ぎちぐもぐくうきうくや
ちひ笑しめへうぐくまうれつくぐるぐぐこそて
うぐうるぐくめへどやんぐとるこそのまうび
ちるこるぐくりくてかりうちりうくこそて
結うめをこの恋い人のれこ海もけづく今めさ

ちよのそのづゝもひあびがさきに。ありく人ん
ぞ。まりつけばうるさがひかひめぐされもてあそ
うちまぎれつゝざるれど。きぐるくばゝへて。
さすがあるれ中成名り。八月日はむまどの初ぐま
出給ひつゝあでゝ。つゝりあり。いつまぞや。文
あやうしあひ。いるさもちゝしこゝしじ。
つゝぐゝさけそひあへる人ぞや。人の心やぶり。
物のあやまちすまぐさ人いぐゝそあり名れ
るぐ。うけこゝろこいまめあはされ成づき
ぞつゝぐゝさげこゝ結。つやも名もぶゝり
あるれでゝれる紙しゝるゝあるひも。

いげゝるゝゝわるゝゝゝゝゝゝゝ。あゝん。世の人の
深しゝゝとゝゝぞつゝの名もゝ人めあやめも。
ゝふいめづゝゝるあゝうあばゆゝ。ゆゝ。なもなすぐも。
ちふゝとゝるゝいあゝゝゝあめぐされ者ゝ成ゝすく。
姫ぎいあばゝ。文ゝゝれふゝあり。ゝゝゝうすやう
ゝゝれゝいいゝゝゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ行
ゝゝあゝゝゝれゝまゝびづれぐゝゝゝゝゝく
ゝるゝや

ゝふゝゝやひゝ人まゝゝゝゝゝゝれゝあれ
あやれ孫のゝゝゝぐれんゝゝゝゝもひゝゝ出げゝゝ
孫ゝゝすびつけゝゝれば。ゝあれれゝゝりあぐゝゝの

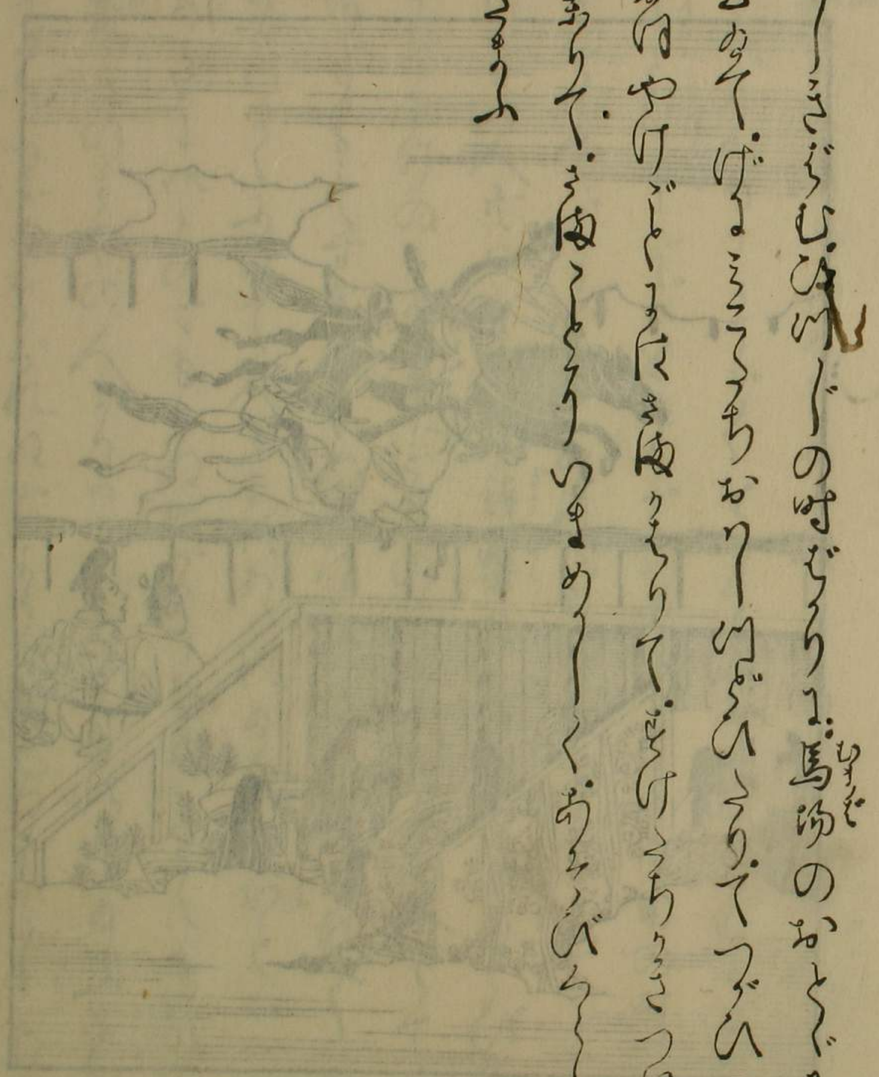
くゝ来て出あめこれれもあるとこゝあれば此
心ともいぶ（ひ）ぶゝけん
あゝもれていぶ（ひ）あさくもゆる雨のやめも
つぶちぶれけるの。わゝくゝしくとだりか
のゝぞあんめるを（地）をいつまうすゝゆへづけゝ
ぞと（蛍）こゝいこのまゝされ四ゝいゝあゝこゝ
こゝけゝゝゝとゝむ（むすこそ）ぶぐこゝちるゝあ所まて所ゝ
ゝゝ所ゝ（むすこそ）ぶゝゝちぶゝこつゝまびの久ぶちるさ
れ有ゝゝて心ゆゝび給ゝとゝも所ゝゝる所ゝぶ在
ひとゝこぶつゝぞりのゝゝちるゝてもやゝこゝ
れとゝぶ所ゝぶさゝん（保）貴し東のれゝ（ゝちる）ゝまも

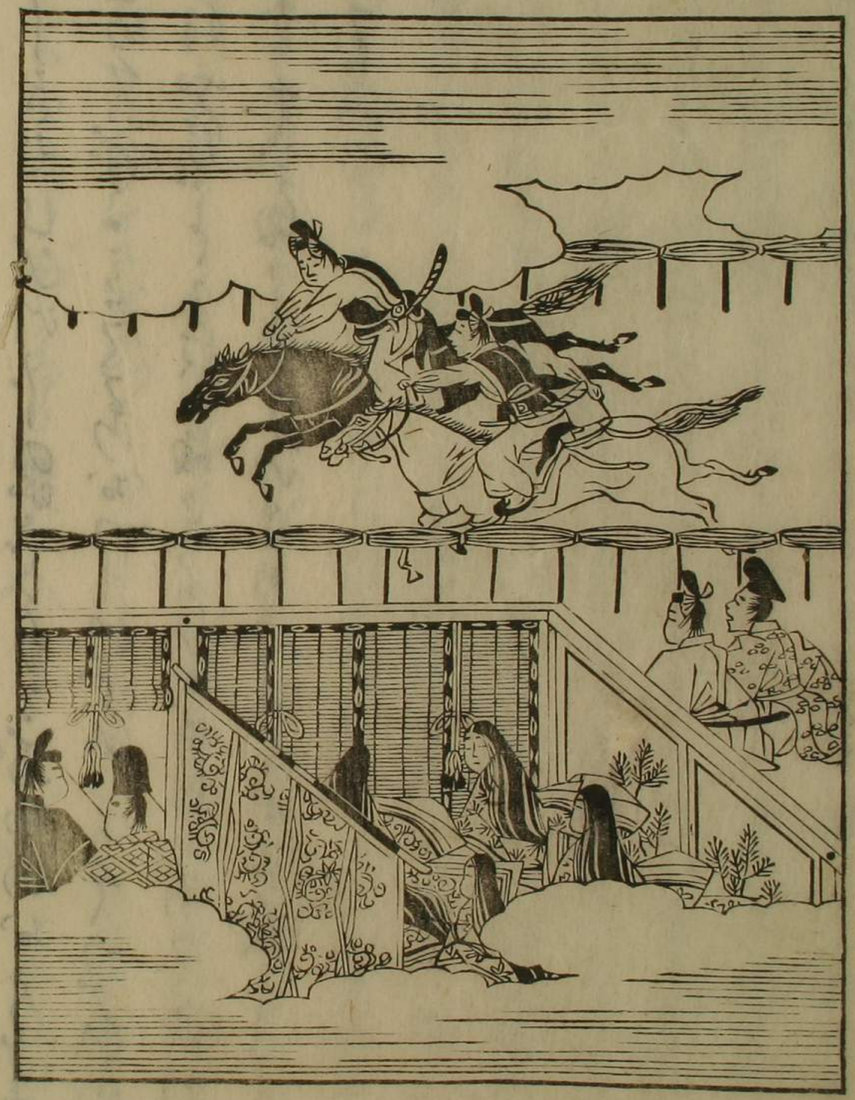
八

さゝのぞさゝゆゝひて（清行ゝ中将のゝ（たちゝの侍）ゝ
のゝいでゝよゝをのゝこゝもゝゝゝれて祇とゝべゝゝ所ゝ
いひゝをゝゝゝ心ゝゝのゝへゝゝぶゝあゝゝ行ゝゝゝん
物ぞゝおゝゝゝゝ寝ゝゝゝぶゝゝゝゝゝゝゝゝのゝゝゝ
ともゝこのゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

へるに、碁の出方よりもつくべちぐ地こるつを
さそらうの戸ぐちこうあの紙やこうけつくして、
いまめさこうすそごのれま帳ぜこてつくーつくい
しもづくへるぐ海こうふこうぶぐれのあこえんふ
さあいのうすあ〳〵くぐこここるつくこべで西乃
碁のあるこれまくくられこうぐこり四人ちも
げくへいあふちのすそごのもちでーこの若紫の色
ーこうくこうえげふのこそひぜちりぢちるこのい
ここひくくこるのよるでーこぐこるのくぐえんなく
堺とこるのてをのくいぐくぐなこうもてこるーー
こぐありつわやこうこ碁べくへなどけめ紙こそけく

こうさぐむひけーぐの吋ぢこりこ馬沼のおとぐこ
出めてげこここちかつけぐひこりてつぐひの
堺やけぐどこ氏こ海くこりて碁けこちくこれ
こりてこ海ここりけいまめーくおこべこ
こまふ





ぜいたくなのあそびをきらぬゆゑ人どもを
さんへんちうさうぞくとつくりて家をうばうて
まどくしあるどころぞおくうの南の町を
とをりてちうぐとあれば御ちうもやうを
ワきく人ぜいこうり御徳樂納藏利ちぐあそびて
うちまけのらんさうどもの〳〵ちうもようへうをて
何ぐずもこうずゆくてぬどれ
ちうこうあつてへどこれ
ちうさるれものでまりぬ地ぐちうどこそのひて
夢ア
芸ア
のこやの人へうこうちくまつのまふれ
うちちうどいそどれねぐ

あいぎやうつきうち
えや遊びてこめひつやうと
いへどれそれとあれとの
のーのへどわびまきうてぞうしうまひ
びくありるさざづうち
そびれどむーのうちつうそはのこまりし
ばつるーいくくくくくちなどわび
まうのひとれそちのうくくまれしのふの
れどけうひかうて
のひけうとの行へいふ
ばうどほうこうておをあるとびうとあれ
行後ふへあうへとあんつけかうー先ふ後のて

くいふ人をぶいたりあ
ちどどこ心くくさんまあるとうるどうは
あうちうきまがうてうえもあうあうやう
あんんとこのへどうこうあうてもの結いぞ
今いうてあるるのれむつびうておまりなどを
ふくくうてあるれでもうどてくくをれ
そのーでく変いうーどりのふうるるやう
ともそどうこ冥い結いぞ幸びくありあーつけ
うれあうびどもを人づてるのこうく結けるる
ふのづーうーうるこいどうをぞこのまち乃
えてこうくーくーとあばーう

そのうぶもすくあめまとそろそて京行の
あやめうちやひきつるとくおはさうこ笑しのふたて
どうのくるもあしのひぐ長とおぼしうる
ほごうようげとうるしづうつぐ面もいけう
あやめのひきつるべさ。あいくちちきれいくぐも
ちうや。おほ月タのくぐてあうやうおれどくくてえ
なういうろやすくこそあれくぐれぐくれど
のぐやうまおつすうへぐ面ちれば。しげきうて笑
ちうまふ。ゆうとばゆづり笑まてれ本帳引へぐて
おはとのごまうげちうくちるぐあんすぢをばと
うげやうえべ長くこおはもひうれうてうて

めべれば。おほ月ぐちうもうそて始うず。比有恩何の
年うもいうくして。そうくううなうつれぐ
れば。れうぐ詩拙俗おちぐのすひまて。おく
うくのふ。おくのれうさくやうのくをも
うあうてうちるのて。恋恨のれうまりふ。
西のういうは。まてめづうちうそ始くのすぢ
うれば。れば書うさうくいうちうなうつうさなうあ
わうへあまうあり。さ面ぐくめづくうちうひくの
うへうぐを。まくくまや俗しやうひあれめうう
中まも。げが省恨のやうちういうちううとくくをふ。
拙俗ようあり
ちくうくうくの姫宏のうくあ。うけんありいうちまれ

ようていまれ世のあぶくもちをこころくちあるる。
（伝教院にあるうつくしき）うぐへのうつくしがほどくしうまけんちぐそうさ
（伝つくしそたまの盛がうち）けんがゆくしうたばしちぐそしへ（法華）ほいうちる
うちるようる地ぐもしのちうりいれ光るうちれ
れいあれむつしかそうさうぐそ人まあぐ
じうれんくじまれうれちれうれうこの中う
まうくいくすくちうんをかちうくうすう
ぐろぐくこ心をうつしそうれのあいは
しさうこぐれぐこのうぐうもうぐでうさまま
まうそうつひ（法地）しくうせのうくちる
でいげまちまとうちぐうくうくちうれぐを

（法華）ちぐこうちうさうくもこの（法華）どもの中まげるさも
めうんとあうれとうこせうさぐしういでけうる
うるうそうちるちぐくうちうちぐいうさづこうろ
うこうさうううげちうひ（法華）ぐのまれうへううう。
うる心つうしまういうあうまぐうさうくうれと
ううくなぐうくうくうとううしけうが光なぐろ
うそうさづくまうびぐうくうれどあくちうしう
ちあいいちうぐもあうべしこのぐうあうさ（ゆうたれ）
人のうぐうちぐまうけぐまうとううけぐまれ
うくいうまのくせまあべうさうれうくうくをう
ちうれうちうちううぐうひむすんくあぐゆ

れどさしもあらじやとの給へど（泥行）げにいかにまた
ちれうへやうに面ぐるしうはんあらいと
まことのことにそなるひのへくれれて祝を
とりやアとのへいどちちるくもうておうてげる
仲代ようせるあるこをさるしをさげるるまは
本紀（ひぎ）をどいうでるそばでしれるまるそちく
ちをくくくくくいあるめうてひ給（せうとき）その人を
うへそおりのまるひ出ることそちけれ
ちもあしさもせるうへの有様のこうまもあら
ど アるもあるこをはのせるものひつへうせ
まはちさかれをを心るるどうそひをさ

ちどめうるりうさうをいとうていうさうのこ
限ようり出て人はちるがりんそいうるあるさ
まれめどしさをとりあつめうられるぐ
まつけるぶせの外のこるぞうへのこどの
ざえけりやうそろおるどやまれ出のこと
るれど音今のこうるべしあうさこあさ
このけちめそあるひこあるそぐこ
いひてんもこの心こびてちんありけり佛の
いこうりこ心てどこをきのへるれ法も方便（ほうべん）
といこりてさらりあるさ和いこうここふ
説（とき）を亟（とき）べくちん方本（ほうぼん）の中はれどひ

ゆけばひとつもの菩提と煩悩との
へだたりもなんこのへのうさあーさぐりのごとい
うちうけうくいへばすべてもるべくもそもも
くばりめや拙ぜをいとけざとのこのゆひ
るーけさてうちうくのちるまろやうこ
ぶはうちもれものー拙ぜはありやいうけど
とうう拙のぜ恋もれこうろのやうこつれるくそーちば
ゆうさたうろはせるあーどれけざうびるさ拙ぜ
うてせるつくへうきんとくうーうてうさしめへば
くれをひさ入てさーずともくめづーちるうこと
世ぜうこうその成行めべうあれとの名へむ発げう

くうやちばしめふげうこてまるうさ心ちすれとて
ちりおめへるうさ後いくーあざれうと
ちひあまり昔の拙をうづめれどおやうこそむ
けうみぞうさびるうさ拙けうるはれのうこもいこ
ドくこそいひうれくのめへど後もうげ拙は
れでれどーとうさやうこいうどう恨うまへむ
うーうーて

ちうさ拙をうづめれどげうちうくは世う
うちやの心いどうこうしのふも心うげうれむ
いーいうくうこうれ拙ぜーていうるへべさ
れ資格ちんむーうれのこも姫ぜのれあうくへう

とづけて。物げいは。はくぶつこまけく
物げのゑまてあるとい（原汁）とくとうきうゑれて
ゆんぜちいさ（ちいさ）ゑのちる心もちくてひる
しのへる有と。昔の有家ばし。出て女ゑ（ゑ）み
ゆふ（原汁）ぐりはどちぐ。いるざれうくんまろ
てれうしまけべく心のどけさい人ゑ以ざり
けれとさて。出のうげ（ゑ）ゑびはうあと
どもいこれうあけゑ。姫ゑ（ゆ）のれ前
まて。は世ちれう物げちぐ。ゑうをゆて。
みてう心つうう物のむすあちぐ。はしうは
あしぐ。ぐうこうあうるゆとうなれ給

んぞゆうう。やとのゆもそよ（世）ちるしく。世のれ（む）
ゑ字給ちぐ。心ゑうう給けべくちん。う（ゑ）人心あうげか
ふひうまひどもいうう。ゑはういくこうう
つはのうぐけうのうゑみのむすあこそ。ゆうをも
ゑまうぐうう人まて。おやまちうれどすく
うまいひ出うう。わざもやうう家ちうあふぞ。
ひうやうちあうとのゆへ（原汁）けうの人もうである
べうあう。ひうぐうくうそうゑもむうさごうて。
ううはどうまへめやうちうあちやの心うぐ
ゆて。はうしうそうう人へのこあうこうをいけふゑ
ゆうまて。をれうう人へうるいふうるわざ代

してくづさしぞ親のきるざけくさひやう
ゐくこそいとをれげにさいくどもくのけうひ
まことこころいひわりなもどくしうゑ紫式
くぶりまだゆくはめをきこころよきでこうわざ
いひいろこくの中よげにとこえこそゆうこく
ゐるさいとこおりするわざやとくべてゐこめ人
いぞ人はめをせどゐるとこどこの姫君のてんつれ
ゐまづくこころげよこそのくまふまはくの
もくざくちゐさ著物ゐもはけうを心こよ心づき
ゐしとなびをだいくどくこうつちんくさとく
の人をゑちどまもうくをせ治けう中将のさうゑ

紫式部こうはけどをくゆきてゐ実めれど姫君のの
ゐくまはくこくちちこうこゑ治ゑずゐうはけ治
日ごせの程いとそもくてもおちどくこれど
ゐくんこをきひやこゑれこつきをひちこめう
こくもこそどうはこそいはばゆべくれとそこゐること
おもてのこまのこちいゆくめうりぶひもんが去
女房の中いゆく治ゐずおまこおいもあれたくく
ひこそいとやむくこちくくづさ実めうりおか
くこの心もちゐちどもいとゆくくしくまあやうま
ゐれしのゑ云ゐればうこくろやすくこくゆづれう
紫式部まこいこけくろひみれあそびゐどのけうひのこゐ

れば人の（雲カ）ものいとあそびてぞ過ぐしける
春のまづ咲くはなれば花みるとやげ
に人はいとくしくあてにおもしろくこうちしほれ
たるひろうさも有めべきあるいとおもしろくいと
のどまひかくはあるあれどこれこそくべくも
なれざるこころもちぞ心ときめ
めべきをもおもてちをとりぶとこもちておもて
それぞりの袖をこしちをそしてもぞふうろ
のこそやんごとなきつまもとまりけるあか
がらこちぞづひまぞこそあるこそ
ゆゆしきひもしりべられどうとさひし

なりくいでで人をもとくつきたてきうんと
さひをこそこつもれぐこそこそこだり
まぞこそこもあ衰をつこそこそ（雲カ）こだり
つれ思くず（雲カ）をとれ逆ちぞもかまひこそ
ちぞのこそつこと切はなり雲のひめぞこそ出
有様を右の中（樂カ）ないとかくなひしこそいひ
ようこそこうもいとこれこのえ（タ）をぞこうち
ようれど人（タ）のこへまでいはまぐこさつざなり
こうとづれちくいこへてぞ見しなけり昔（他）乃
ちくおとくぐこちのれちくこひまこうこ間のなとぐ（以）
いれまどもちくぐいとなはうこそのなひいで

ろ忍び人げうさうたぐひつ心よもうせうろ
やうろうえいさほひうそてゆるくしそてゆふ
あまろくもおりうめを女れもりくなげうちくこの
ちぐうほりゆひ娘ゑもうくこうとくうぶうさ海うて物
ゑゆへばいうとにおりとおばもて授ちうでこと志れ銘
ゆずゆけくれうもゆ洩出銘しこうとればくるゆ妙ようん
畑ろうろりけう親の心よひれてらうぶちり
しへをもり来ろくず妙ろうゆろうとすべて女ざとい
ちん畑ちんいうもくめもちまうりけうさ
うらう我子といひてあやちうさ海うてちぶれ
やすうんとてもくうても学れ出ふかと表ようぶし

りろうれ学ばず道うゆもゆ竹
ろくとぐめう心のすうひうゆまりきてうろまぶうさ
うとも初りうりし中う見いりとしうちうべての
うけはゆいざりし人のうろうちうさ畑うむじをし
てくすうちりけう畑のうろうひ光とうを失ひ海
ふうとのロおりうろうとと常よのゆひ出中沈ちぶけ
うもあうず子ゆゆひけうを人の猪ぐようけて女
ぶりづうさゆへうるうぐひぶうし我おゆはうもうもう
ちうあいと心うくはいうくゆうさゆ妙ろう義うゆひて
いくうくありうする畑りして合を結けうよりし年び
れ心うもちうれ結りゆれれゆとゆ人の畑うちうて学台

せんやとそそてうそ名れば・名ごの人のさよ女ことに
ものくるまーうくいうちうとうとうあんちぐ・地この
ごろぞ・ばーしーのゆふ・ちうち